



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	「規準」と「基準」
Author(s)	富士栄, 登美子
Citation	家庭科教育, 76(7): 5
Issue Date	2002-07-01
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2225
Rights	

「規^{のり}準」 と「基^{もと}準」

富士栄 登美子

(琉球大学教授)



久しぶりに映画を観た。「ビューティフル・マインド」(Beautiful Mind)である。よかった!! 正當に評価されるのは?を考えたがら観ていた。ノーベル経済学賞を受けたジョン・ナッシュ氏の半生を描いた映画である。主人公の彼は、受賞記念講演で「愛の方程式の中に理がある」と言っていた。

国立教育政策研究所センターが二月二十八日、「評価規準、評価方法等の研究開発」を発表した。これは、絶対評価の指針となる評価規準の考え方と評価の具体例を示している。教育現場では、この絶対評価をどのような手順と方法で評価したらよいか悩んでいる。基^{もと}準は「選考基^{もと}準、建築基^{もと}準」などに使われるように標準とみなす数値であり、規^{のり}準は、「社会生活の規^{のり}準、守るべき規^{のり}準」などで手本、標準とすべきものである。つまり、指針となるものであるから評価規準となる。

訳あって集中で、半期分をぶっ続けで講義した。初日の授業で「皆さんの成績は、今日の時点では全員優ですね」と言った。何故だか分からないのだが、これまでのようにスタートで0ゼロだとは思わなかったのだ。そして、学生たちの反応はものすごかった。「良」に落ちまいと必死なのだ。私語はもちろん、遅刻する者も少なく、受講生二十六名のうち、一人の落伍者もなかった。努力すれば「優」になると思わせることよりもずっと効果があると思った。

私は、映画「ビューティフル・マインド」を観て、正當に評価することの大切さを学んだような気がする。